

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価
確かな学力	A	学習の基礎基本をしっかりと身に付けるとともに、進んで学ぶ力、活用する力を育てる。	①全国学力・学習状況調査において全国平均+4P以上にする。標準学力調査で、各学年ともに評定1の児童を2割以下にする。	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり ・生活科・総合的な学習・算数科の時間の研究を通して、自ら考え、主体的に行動し、よりよく生きようとする児童を育成する。 ・各学級が年間2回以上研究授業を行い、講師を招聘する。 ・学力調査等の分析をし、学校全体での対策を講じる。(学力分析のPDCAサイクルを回す)	・全国学力・学習状況調査：全国平均 +4P以上 ・標準学力調査：各学年 評定1…2割以下	・全国学力・学習状況調査：全国平均 +6P ・標準学力調査：各学年 評定1…2.5割	・放課後教室や香長つ子タイムの時間等、基礎基本定着の時間を有効に使う。 ・児童のつまずきが見られる授業内容について、効果的な授業展開を具体的に教員間で交流していく。 ・講師を招聘し、研究授業を行う。	※家庭学習が出来ていない。学校に来て宿題をしている子供がいる。宿題をする・しない子どもの差がはげしいと思う。 ※放課後教室の声かけをもっとすればいいと思う。 ※宿題をしてもらうという取り組みをもっと強化して欲しい。 ※学習カードを続けていて保護者と学校の連携が取れている。	B
			②全学年の児童が落ち着いて学習や活動することができる。	子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など) ・ユニバーサルデザインに基づく授業に取り組む。 ・児童が考えや解法を筋道だてて書くことができるようにする。 ・「学習のきまり」を再確認し、児童に配布する。 ・「香長スタンダード」の課題と振り返りを取り入れることを徹底する。 ・学習規律を統一する。	・学校評価アンケート「授業がよくわかる」：肯定的回答 90%以上	・学校評価アンケート「授業がよくわかる」：肯定的回答 88.3%	・香長スタンダードの授業をもとに課題設定と振り返りを大事にし、ユニバーサルデザインを基本に、どの子にもわかる授業づくりを行う。 ・児童が主体となって取り組めるような授業構成を基本に考える。	※家庭学習カードを継続することで、形骸化しないように、クラスの実態に応じて工夫する。 ・自主学習の深まりのない児童には、教員からの評価をこまめにしていく。	
			③教員が指導方法をともに研修することによって、授業の質が上がり、どのクラスでも探究的な学習指導が行われる。	学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組 ・『家庭学習の進め方』を配布し、自主学習ができる児童を育てる。 ・家庭学習カードに取り組む。 ・自学ノートを見合い、認め合う取組をする。	・『家庭学習の進め方』を配布し、自主学習ができる児童を育てる。 ・『家庭学習の進め方』を配布し、自主学習ができる児童を育てる。	・『家庭学習の進め方』を配布し、確認。家庭学習カードを活用し、保護者と連携しながら取り組んでいる。自主学習の内容も高まってきている。	・家庭学習カードを継続することで、形骸化しないように、クラスの実態に応じて工夫する。 ・自主学習の深まりのない児童には、教員からの評価をこまめにしていく。		
豊かな心	B	自信をもって生活でき、仲間意識をもった行動ができる子どもを育てる。	①学校評価アンケートで、ほとんどの児童が読書が好きと回答する。 ②学校評価アンケートで、ほとんどの児童が「自分には良いところがある。」「何事も頑張る人になりたい」「学校のきまりを守っている」と回答する。 ③学校評価アンケートで、ほとんどの児童が「良く考えて自分で行動できている」と回答する。	・朝の読書の継続 ・高知県ショートコメントコンテスト、読書感想文コンクール、感想画コンクール、新聞作りコンクールへの応募 ・道徳の時間の充実により、道徳実践力の向上 ・意識調査の分析 ・道徳授業を全学級で公開 ・特別活動の充実	・学校評価アンケート「読書が好き」：肯定的回答 95%以上 「自分には良いところがある」：肯定的回答 85%以上 「何事も頑張る人になりたい」：肯定的回答 93%以上 「学校のきまりを守っている」：肯定的回答 93%以上 「良く考えて行動できている」：肯定的回答 90%以上 「あいさつを進んでいる」：肯定的回答 95%以上	・学校評価アンケート「読書が好き」：肯定的回答 83.6%▼ 「自分には良いところがある」：肯定的回答 84.7%○ 「何事も頑張る人になりたい」：肯定的回答 92.9%○ 「学校のきまりを守っている」：肯定的回答 95.3%◎ 「良く考えて行動できている」：肯定的回答 89.4%○ 「あいさつを進んでいる」：肯定的回答 94.1%○	・授業の中で、図書室を利用する機会を増やし、担任も一緒に図書室に行くようにする。 ・担任も読み聞かせをするなど、読書の楽しさを伝えていく。 ・教科との関連を図り、道徳の授業を充実させていく。 ・学校便り等で、「高知の道徳」の活用やモラル、マナーについて、日頃からの親子の会話をもつように啓発していく。	※自分に自信のない子ども達が見られる。少人数の学校なのでもっと気配り、細やかな心配りをして欲しい。 ※来校者にあいさつをしない子供がいる。全員が元気にあいさつができるよう指導してほしい。	
			④学校行事などを工夫し、保護者・地域と一体になり、児童を育てる。	・PTAや地域との連携を密にしながら、学校運営への参画・協力を多くする。 ・学校支援地域本部を中心としながら取組を充実させ、積極的に外部人材を活用する。	・参観日参加率：90%以上 ・学級通信、学校便りの発行：昨年度以上 ・ホームページの更新：月1回以上 ・地域の方に参加してもらう行事等の充実	・参観日参加率：平均93%以上 ・学級通信、学校便りの発行：昨年度以上 ・ホームページの更新：月1回未満 ・地域の方に参加してもらう行事等の充実 ○キッズチャレンジデイ ○交流もちつき大会 ○6年生を送る会 ※2月実施予定	・HPの更新を定期的に行うように、毎月、更新する週を位置づける。 ・保護者や地域の方の参加を少しでも多くいただけるように、行事等の内容について、子どもとのふれあいや共同作業等を取り入れたもの等、工夫していく。 ・運動会競技 ・キッズチャレンジデイ ・交流もちつき大会 ・6年生を送る会 etc.	※学校、地域、保護者との連携が出来ている。運動会など地域の方が参加、協力する姿が充実している。 ※保護者の中に子どもの運動会に明らかに参加しない格好で来ている。運動が出来る服装で来るよう声がけをしたほうがいいと思う。	
健やかな体	A	児童の運動能力を高めるとともに、運動が好きな児童を育てる。	①全国体力・運動能力テストで、男女ともに全国レベル以上となる。 ②学校評価アンケートで、ほとんどの児童が「運動を進んでいる」と回答する。 ③学校評価アンケートで、ほとんどの児童が「普段の日のゲームやテレビの時間を2時間以内」と回答する。	・体育講習会の実施(基礎的な運動能力、水泳、バスケットボール) ・校内に運動に関する掲示をして、児童に運動に関する情報提供をする。 ・柔軟性を高める日常的な運動に取り組む(ジャックナイフストレッチ) ・運動を楽しむ環境作り(施設・体育集会の実施・持久走など)を進める。 ・縦割り班を利用した体育的な活動を設定し、習慣づくりをする。	・全国体力・運動能力テスト：全国平均以上 ・学校評価アンケート「運動を進んでいるか」：児童・保護者ともに、肯定的回答 85%以上 「普段の日のゲームやテレビの時間を2時間以内」：肯定的回答 80%以上	・全国体力・運動能力テスト：男女ともに全国平均+10P ・学校評価アンケート「運動を進んでいるか」：肯定的回答 児童：84.7%○ 保護者：77.2%▼ 「普段の日のゲームやテレビの時間を2時間以内」：肯定的回答 75.3%▼	・各学年の体力・運動能力の向上をめざし、日々ストレッチなどできることを続ける。 ・異学年交流(縦割り班)上級生が下級生を誘い、運動場で遊ぶ。20分休み時間を保障する。 ・遊びの紹介(体育委員会) ・体力向上に向けて日常的にできる運動には、引き続き取り組む。 ・「ゲーム脳」の危険性について、講演会などを通じ、児童や保護者に啓発し、意識させる。	※子ども達の運動能力が高いと思う。このまま運動能力を高める活動を続けて欲しい。 ※ノーテレビデーを計画的に行なっていったらどうか。	
			④学校行事などを工夫し、保護者・地域と一体になり、児童を育てる。	・特別支援教育に関する研修を年間2回以上実施する。 ・研究授業においては、インクルーシブ教育を意識したユニバーサルデザインの授業づくりをし、視覚支援により学習効果を高める。 ・効果のあった支援方法の記録を残す。	・特別支援教育に関する研修：年間2回以上 ・研究授業での評価項目「視覚支援」：平均3.5以上	・特別支援教育に関する研修：4月10日(金)山田小 8月20日(木)中央公民館 ・研究授業での評価項目「視覚支援」：平均3.7	・特別支援教育に関する研修に、引き続き取り組む。特に、発達障害に関する特性理解や効果的な指導について、研修を行う。 ・香長スタンダードの授業構成により、ユニバーサルデザインを意識した“どの子にもわかる授業”となるよう、授業改善に引き続き取り組む。	※支援の必要な子供に、心配りが足りないように感じる。一人、二人の先生でなく全員の先生が子どもに関わって欲しい。	
保護者地域との連携	B	保護者・地域に開かれ、信頼される学校となる。	①学校行事などを工夫し、保護者・地域と一体になり、児童を育てる。 ②新設保育園との連携によって、香長地区の育てたい子ども像を共有し、ともに育てる。	・PTAや地域との連携を密にしながら、学校運営への参画・協力を多くする。 ・学校支援地域本部を中心としながら取組を充実させ、積極的に外部人材を活用する。	・参観日参加率：90%以上 ・学級通信、学校便りの発行：昨年度以上 ・ホームページの更新：月1回以上 ・地域の方に参加してもらう行事等の充実	・参観日参加率：平均93%以上 ・学級通信、学校便りの発行：昨年度以上 ・ホームページの更新：月1回未満 ・地域の方に参加してもらう行事等の充実 ○キッズチャレンジデイ ○交流もちつき大会 ○6年生を送る会 ※2月実施予定	・HPの更新を定期的に行うように、毎月、更新する週を位置づける。 ・保護者や地域の方の参加を少しでも多くいただけるように、行事等の内容について、子どもとのふれあいや共同作業等を取り入れたもの等、工夫していく。 ・運動会競技 ・キッズチャレンジデイ ・交流もちつき大会 ・6年生を送る会 etc.	※学校、地域、保護者との連携が出来ている。運動会など地域の方が参加、協力する姿が充実している。 ※保護者の中に子どもの運動会に明らかに参加しない格好で来ている。運動が出来る服装で来るよう声がけをしたほうがいいと思う。	
特別支援教育	B	一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制づくりをする。	①特別に支援を要する児童の特性を理解し、個に応じた具体的な支援をする。 ②ユニバーサルデザインの効果的な授業改善に努める。	・特別支援教育に関する研修を年間2回以上実施する。 ・研究授業においては、インクルーシブ教育を意識したユニバーサルデザインの授業づくりをし、視覚支援により学習効果を高める。 ・効果のあった支援方法の記録を残す。	・特別支援教育に関する研修：年間2回以上 ・研究授業での評価項目「視覚支援」：平均3.5以上	・特別支援教育に関する研修：4月10日(金)山田小 8月20日(木)中央公民館 ・研究授業での評価項目「視覚支援」：平均3.7	・特別支援教育に関する研修に、引き続き取り組む。特に、発達障害に関する特性理解や効果的な指導について、研修を行う。 ・香長スタンダードの授業構成により、ユニバーサルデザインを意識した“どの子にもわかる授業”となるよう、授業改善に引き続き取り組む。	※支援の必要な子供に、心配りが足りないように感じる。一人、二人の先生でなく全員の先生が子どもに関わって欲しい。	